

Vドラッグ 店内に総菜調理場、化粧品も充実



総菜や弁当を陳列するコーナーと調理場(左奥)
＝岐阜市徹明通、Vドラッグ柳ヶ瀬店

店名は「Vドラッグ柳ヶ瀬店」で、ガラスルのキータナントとなる。売り場面積は967平方メートル。都市型店舗は名古屋市の繁華街・栄地区を中心に展開するが、柳ヶ瀬商店街の周辺では近年、マンション開発が進んで人口が増える傾向にあることから、新業態の新店を決めた。

働く人の昼食や夕食需要に対応するため、弁当や総菜、ハンバーガー、ピザなどを手頃な価格で販売し、イートインできるカフェスペースも併設する。バローグループの精肉、野菜も取りそろえる。化粧品コーナーでは、メイクやネイル、スキンケアなど女性向けの商品を多く配置する。

処方箋の受け付けは7月中旬から始め、調剤薬局としての機能も併せ持つ。血圧計など3種類の健康測定器(無料)を置き、来店客はセルフで健康チェックできる。測定値に基づいた管理栄養士による健康相談も随時実施する。

國島慎史店長は「地域に合った商品を提供し、まちの活性化をサポートしたい」と話している。

県内初、きょう開店 働く女性らターゲット

バローグループでドラッグストア「Vドラッグ」を展開する中部薬品(多治見市高根町、高巢基彦社長)は8日、柳ヶ瀬商店街の再開発ビル「柳ヶ瀬グラスル35」に、店内で調理した弁当や総菜などの食品を販売する都市型の店舗を県内で初めて出店する。柳ヶ瀬の人口増に対応するため、総菜に加えて化粧品などを充実させた商品構成とし、働く女性や子育て世代の需要を取り込みたい考えだ。

(松浦健司)

「都市型」店舗 柳ヶ瀬に出店



都市型店舗としてオープンするVドラッグ柳ヶ瀬店。岐阜市徹明通